

## Q 2 不妊症と年齢にはどのような関係があるのでしょうか

A ヒトの卵子の数は、出生前の胎生期20週(妊娠6ヶ月)頃に約700万個となり、最も多い状態となります。出生時には約200万個、初潮を迎える頃に30万個と減少していき、30代後半では約25,000個、そして閉経した時点でほぼ消失します。妊娠率については年齢とともに低下することが報告されていますが、その原因は年齢の上昇に伴う「卵子数の減少」ばかりでなく、「質の低下」も考えられています。さらに、加齢によって「異常染色体を持つ卵子が増加」するため、流産率も上昇します。

### 不妊症の頻度

15～44歳の女性を対象に調査を行ったところ、全体として13.3%、婚姻関係にある夫婦に限定すると17%が不妊と報告されています。女性の加齢と不妊は密接に関係しており、不妊の割合をしてみると20代前半までは5%以下ですが、20代後半は9%前後、30代前半で15%、30代後半が30%、40代以降になると約64%が自然妊娠の望みがなくなると推定されています。

不妊の原因を性別に見てみると、男女共に原因ありが24%、女性のみ原因ありは41%、男性のみ原因ありが24%、原因不明が11%でした。約半数は男性側に原因があるといわれています。